

カナダの5大メリット

Why Canada

なぜ、カナダなの？
理由がわかると行きたくなる



MERIT

1

高い教育水準 ～世界で最も学びやすい場所へ選出

カナダの人々は教育に高い価値を置いています。カナダの優れた教育制度、質の高い指導内容と最新鋭の設備、安全で清潔な教育環境は、いずれも国際的に高い評価を得ています。その証としてスイスの国際調査機関 IMD による世界競争力ランキング(2008年)で、カナダは堂々のベスト8入りをしています(日本は22位)。また、「世界で最も学びやすい場所」としてカナダの多くの都市が上位にランキングされています(世界銀行調べ)。



MERIT

2

標準英語が身につく ～方言がない

カナダは世界でも稀にみるバイリンガル成功国家。自国民のみならず移民、留学生への英語教育は世界トップレベルです。カナダの英語はアクセントや方言のない標準英語であり、英語を第2言語として学ぶ留学生にとって、カナダは最適な留学先です。「聞き取りやすく標準的な英語が身につく」その証として国際報道メディア(CNN など)がカナダ人のニュースキャスターを好んで採用することは有名です。



MERIT

3

世界で最も住みやすい国 ～国際機関による調査

豊富な天然資源と最先端テクノロジーに支えられた経済水準の高さ、国民を苦境から守る手厚い社会保障を背景に、カナダは「極めて治安の良い国」として高い評価を受けています。その証としてイギリスの国際調査機関EIUによる世界140都市を対象にした住みやすさランキングでは、昨年に引続き今年もバンクーバーが1位に選ばれました。また、ベスト10の中になんとカナダの都市が3都市もランキングされています。



ランク	都市名	スコア	ランク	都市名	スコア
1	バンクーバー	98.8	5	トロント	97.0
2	メルボルン	98.2	6	ヘルシンキ	96.9
3	ウィーン	97.9	7	カルガリー	96.6
4	パース	97.3			

MERIT

4

生活費が安い ～アメリカより10～15%安め

なるべくコストを抑えて質の良い教育を受けたいとは誰もが思うこと。その点、カナダは学費や生活費が他国に比べて安く、教育の質は先述の通りです。まさに理想的な留学先と言えます。

アメリカ	イギリス	オーストラリア	カナダ
100	125	86	85

アメリカを100とした留学費用の各国比較



穏やかな国民性 ～エピソードでわかるカナダ人

穏やかな国民性で知られるカナダ人は親日的でフレンドリー。明るくオープンな性格で隣人を大切にすることも知られています。多民族国家カナダでは、リベラル(自由で中立的)な考え方が一般的なので留学生の受入れにも寛容です。国連の調査によると、カナダは過去連続で「世界で最も生活しやすい国」の栄冠に輝いています。カナダ人はさぞや鼻が高いのではと思いますが、こちらがそのことを持ち出さない限り、めったに彼らから自慢をすることがありません。そのような慎み深い自分たちに誇りを持っているようにさえ感じます。それゆえ、愛国心を振りかざして「何でも自分の国が一番」と言ってはばからず、はたまた国旗をモチーフにした派手な服を着て平気で歩いているような隣国を冷笑します。カナダ文化に関するRaj Booraの論文にも「カナダ人なら、せいぜいカナダ国旗の小さなピンバッジを胸に付けるくらいのものでらう」とあります。決して派手ではないものの、一般にカナダ人も強い愛国心と誇りを持っています。



広大な国土と美しい大自然



親切で友好的な国民性



多民族が平和に共存



世界有数のハイテク国家



大都市でも清潔で安全



銃の所持が制限され安全



実は世界有数の産油国



国際平和・環境問題で世界をリード



医療、福祉制度の充実



美しい街並み



公共交通機関の発達



高い教育水準

カナダ大学徹底ガイド

University guide

本当のことがわかると
行きたくなる。

普通の高校生でも十分可能

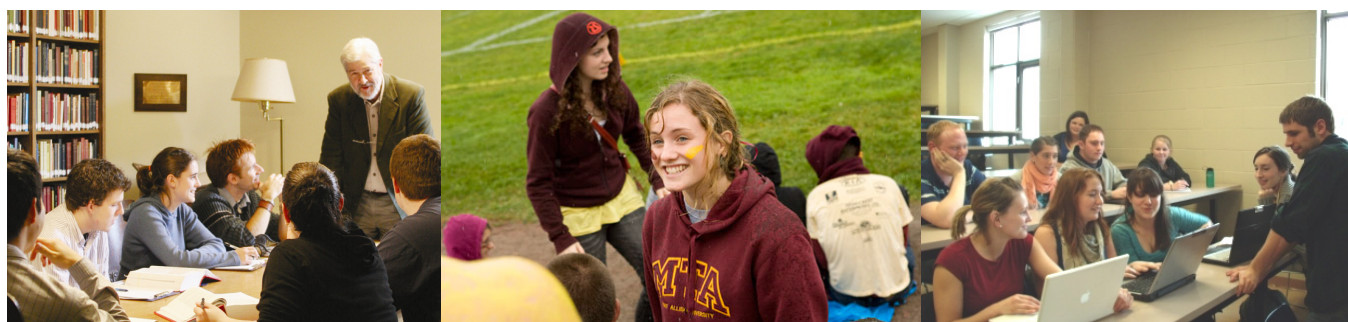
カナダの大学進学について、英語力、学力、卒業後の進路など、いろいろな不安を感じるかもしれません。自分でも入学できるだろうか？授業についていけるだろうか？準備は今からでも間に合うだろうか？英語がそれほど得意でもないけれど・・・などと不安も膨らむことでしょう。一方、実は既にたくさんの先輩達が日本の高校を卒業後カナダの大学に進学しています。そして英語力のハンデを乗り越えて見事卒業をし、様々な分野で活躍しています。そういった先輩達もほんの数年前までは皆さんとほとんど変わらない普通の日本の高校生であり、そして同じように不安を持っていました。そこから一歩を踏み出し、自分の努力と周囲のサポートで、充実したカナダ大学生活を成し遂げたのです。留学生へのサポートが充実しているカナダの大学は心強い味方となってくれるでしょう。

卒業後の就職に際しては、アメリカの大学卒業者と同様、不利になるどころか有利になるケースが増加しています。経済がグローバル化した現代では、国内のみで経済活動を完結することはもはや難しく、日本の企業であっても、今後は益々海外との結びつきの中で経営を行っていく必要に迫られることでしょう。そのような状況においては、英語と日本語を理解し、海外の大学で国際感覚を磨いた海外大学卒業生の活躍の舞台は広がる一方と言えます。カナダの大学進学を真剣にお考えの場合は、是非、進学カウンセリングを受けてみましょう。

世界で高い評価を受けるカナダの教育




国際的にもカナダ人は教育に高い価値を置いていると言われています。高等教育を受けた成人の割合が高く(53%)、アメリカ、イギリス、フランスを含む他の経済協力開発機構(OECD)加盟国の水準を上回っており、カナダの優れた教育制度、充実した訓練プログラム、教材、施設は、いずれも国際的に高い評価を得ています。カナダで学んだ留学生の多くは、その安全で清潔な環境、質の高い指導内容と最新鋭の設備等に大きな満足感を抱いています。カナダの文化的多様性により、学生は滞在間もない内に生活に馴染むことができます。

また、カナダの英語は、イギリスとアメリカの中間に位置するアクセントを備え、方言がほとんどない標準的なものであり、外国語としての英語習得を目指す学生にとってカナダは最高の留学先となります。多くの国際的なメディアがカナダ人キャスターを採用する背景にはこのような標準英語がネイティブにも受け入れられ易いからなのです。カナダ人自身の教育に対する信念も深く、多額の財政援助に反映されています。国民一人当たりの公教育への支出額は、世界でもトップクラスです。このような高水準の教育投資を維持できるのは、それが健全な成果として実を結んでいるからです。良好な生活水準、高い国際競争力、政治・治安の安定、そして生涯学習が奨励され、これに見合った成果を得られる国としてのカナダに対する評判、これら全てが高い教育水準の賜物であることがカナダでは実証されています。



～日本とカナダの大学、5つの違い～

1. 大学の数が違う

国	人口	大学数	特徴
 アメリカ	31,000万人	4,000	上位校のほとんどが私立大学。学費は年間300万円と高額。州立大学も中上位校となると学費は高く、年間200万円以上も多い。生徒は、資金力、学力、英語力、精神力の全てが必要とされる。大学数が多いため、世界有数のトップ大学から成績不問の下位校まで格差が広がる。
 日本	12,000万人	700	少子化の影響もあり私立大学の40%が定員割れ、30%が赤字経営に陥っている。(日本私立学校振興・共済事業団2008)、10年先を見据えると母校がなくなる可能性もある。大卒者の6人に1人は無業者(ニート予備軍)という調査結果(文部科学省学校基本調査)が出ているため、投資効果を見極める必要がある。
 カナダ	3,000万人	90	ほぼ100%が州立大学。学費は年間100～150万円と幅広いが、アメリカに比べると割安感がある。大学数が少ないため各校のレベルが高く均質的。知名度は若干低い为世界で高く評価される大学も多い。幅広い教養を身につけるリベラルアーツ系大学からノーベル賞学者を輩出する研究型大学まで幅広い。留学生にも門戸を開いている。

2. 入学制度が違う

■入試がない!

いわゆる日本のような一発入試はなく、高校3年間の成績、課外活動、英語力が重視されます。出願に必要なものは・・・

1)高校の成績

入学審査で最も重視されるのは高校3年間の成績です。入試がない代わりに普段の努力の積み重ねで決まります。これまであまり成績を気にしていなかった方も「カナダの大学に行きたい!」という気持ちがあれば、明日からでも成績アップに向けて努力しましょう。5段階評価であれば、まずは平均3.5以上を目指しましょう。

2)TOEFL

カナダの大学に入学するには英語力を証明する TOEFL テストを受け、各大学が定める入学条件(目安 TOEFL80iBT 以上)をクリアしておかなければなりません。しかし、日本の高校英語レベルではなかなかこのスコアに達しないため、留学生向けの語学研修コースの受講を条件に入学を認める大学が増えています。

■入学時期が年に2回ある!

日本の大学は年1回4月入学ですが、カナダの大学は学期ごとの入学を認めている場合が多く、セメスター制(2学期制)の大学の場合、年2回9月と1月に入学のチャンスがあります。出願が遅れて9月に間に合わなかった場合も、あるいはもっと英語力を伸ばしてから大学の授業に参加したいと思う人も、1年も待つ必要がありません。

■英語力がなくても大丈夫!

英語力がなくて…とあきらめている方に朗報です。英語力に自信が無くても、その他の成績が大学の入学基準に達している場合は、大学が定める英語研修(又は TOEFL スコアの到達)を条件に入学が許可されます。仮合格の状態でも渡航できるので安心です。英語力の上達には個人差がありますが、英検2級レベルであれば英語研修期間は平均8ヶ月程度必要と言われています。

3. 授業が違う

■ 課題の多さにびっくり

エッセイ(小論文)、リサーチ、実験など各教科で出される課題は多く、発表が迫ると徹夜するほど苦労することがありますが、グループプロジェクトではクラスメイトと親しくなれるチャンスでもあります。また課題がなくても、毎回の授業に備えて教科書や資料を読み込むなど予習は欠かせません。

■ 目的意識が明確になる

大学入試で疲弊してしまう日本の大学生と違って、カナダの大学では目的や計画が重視されるので、カナダの大学生には「何を目標として、そのために何を学ぶか」を考える機会が多いと言えます。厳しい反面、目的意識を持って本気で学びたい人には、最高の環境があります。

■ 年齢も出身国もバラバラ

カナダの大学生のバックグラウンドは実に様々です。年齢に関係なく必要に応じていつでも大学に通って学ぶのが当たり前です。主婦や60歳のクラスメイトも珍しくありません。高水準の教育を求め、多様な価値観を持つ世界の人々が一堂に集まる教室は、日本の大学とひとあじ違います。

■ 企業研修で職業体験

社会で役立つ実践的な実習や、企業研修を必須単位とする学科もあります。卒業後はそのままカナダに残って就職活動もできます。

■ IT に強くなる

IT 先進国カナダでは、学内におけるネットワーク環境も充実しています。エッセイや課題の提出もメールが基本ツールになります。ネット上にクラス専用掲示板を設定し、学生に発表や意見を書かせる教授もいます。初心者向けの講座もあるので、卒業時にはPCスキルはかなり上達します。

■ 出席しているだけではダメ

学生はいかに授業内でアピールするかに必死で、発言のチャンスを狙っています。それは積極的に授業に臨む姿勢が成績にも反映するからです。20名程度の小クラスも多いのでアピールは必須です。

■ フレンドリーな師弟関係

カナダでは教授と学生との距離が非常に近く、ファーストネームで呼ばれることを好み、勤務時間外でも気さくに相談にのってくれる教授も多いです。個性豊かで授業の進め方も多様。試験で辞書の持込を許可したり、ネットの掲示板での意見交換を高く評価することもあります。

■ 授業の主役は学生

カナダでは授業の主役は学生です。教授は授業の方針を決める議長といった役どころです。ディベートやディスカッションが多く、学生の発言が全くない授業はほぼ皆無です。学生達の時に教授をうならせるほどの発言に、最初は驚くかもしれません。

■ 当たり前だけど全部英語

授業は全部英語で行われます。将来英語を使った仕事に就きたい人にとっては高度な英語力が自然と身に付く絶好のチャンスが与えられます。



4. 専攻が違う

■専攻の種類が多い

人気のビジネスや国際関係だけではなく、日本ではマイナー扱いされるようなユニークな分野も開講されており、学位が取得できます。特にカナダが強い分野は、経営学、マーケティング学、情報工学、観光学、ホテル学、スポーツマネジメント学、国際関係学、開発学、自然環境学、海洋生物学、心理学、社会福祉学、児童教育学、英語教授学、医学、看護学、生物学(バイオテクノロジー)などが挙げられます。

■柔軟な専攻方法




日本の大学と同様にカナダの大学も前半2年で一般教養を、後半2年で専門分野を履修します。ただ大きく異なる点は、入学時に専攻を決める必要がありません。興味の持てそうな科目を複数試しながら、将来についてじっくり考えることができます。

5. 費用が違う

■日本より安くなることも

カナダの大学で学ぶための費用は、日本の大学で学ぶ場合と比べ、大きくは変わりません。確かに、大都市圏や地方の小都市など、大学の立地する地域によって、費用にバラツキはありますが、大学の選択次第で、日本で自宅外通学のケースよりも経済的な場合もあります。特に地方の大学は学費、物価も安く、自然環境も良いので勉強に集中しやすいメリットがあります。

国別の大学・生活費用比較(初年度)

費用項目	 アメリカ	 日本	 カナダ(MTA)
①入学金	US\$150	¥300,000	C\$100
②学費+学生費	US\$18,000	¥950,000	C\$14,000
③生活費+雑費	US\$17,000	¥1,500,000	C\$13,500
合計①+②+③	US\$35,150	¥2,750,000	C\$27,600
円換算	¥3,300,000	¥2,750,000	¥2,450,000

データ『Campus Life』大学生協連発行/各大学ウェブサイト公表データを参考に算出

■意外に安くおさえられる生活費

大学で4年間過ごすことを考えたときに、まず気になる点はどこに住むかです。学生寮、アパート、ルームシェア、ホームステイなど、居住方法の選択肢は多いです。語学研修生はホームステイ、学部生は学生寮が一般的です。特に学内の寮は学外のアパートに比べて安い場合が多く、光熱費や食費(ミールプラン)が含まれて設定されている上に、交通費がかからないからです。肉、野菜、果物、パンなどの食料品も総じて日本よりも安いと言えます。米や豆腐などの日本食在を扱うスーパーも多いので現地で困ることはないでしょう。ただし、ファーストフードを除く外食はそれほど安くありません。

■流行に惑わされない気楽さ

夏はTシャツ&短パン、冬はトレーナーにジーンズ。それに重い教科書を運ぶために欠かせないデイパック、これがカナダの大学生の典型的なスタイルです。流行をむやみに追いかけることもなく、キャンパス内は気取らないカジュアルな雰囲気です。ブランド物を持つよりも自分らしさを打ち出すことがCOOLとされるので、日本に比べて服代が一番節約しやすい項目になるかもしれません。カナダの大学生のレジャーとしてはスポーツ全般が人気です。体育館のできるバスケ、テニス、スカッシュ、ヨガ、ダンス各種。ダイナミックな自然を堪能するならトレッキング、ロッククライミング、キャンプなどもメジャーです。映画は8ドル程度から見られ、さらにお得な学割料金などもあります。シーズンイベントや試験打ち上げのパーティーなども大いにぎわいます。また大学には多くのサークルや団体、研究会があり、国際交流会やボランティアなども活発です。